

日本英語教育学会・日本教育言語学会第47回年次研究集会

2017年3月5日

早稲田大学 於

発信型英語教育としての プレゼンテーションの在り方

TED Talksにおける構成と言語表現の
日本語・英語比較を通して

櫻田 怜佳

日本女子大学大学院

rs03zb@gmail.com

1. はじめに

□ 文部科学省「グローバル人材育成」

中学，高等学校：スピーキング活動

大学：プレゼンテーション準必修化

□ 英語プレゼンテーション指導

英語スピーチ（Steve Jobs, Barack Obama）を例に挙げ、
英語のレトリックに則って指導される

➡ 日本人にとっては馴染みの薄い形式
（ex. 結論を初めに述べる、根拠を3つ挙げる）

□ 日本語・英語スピーチはどのように異なるのか？

2. 本研究の目的

日英語のスピーチの形式を明らかにした上で、
ひとつひとつの機能や役割を考察し、
さらに、日英語で構造・表現が異なることの要因を探る

□ 分析の視点

言語的特徴を以下の2側面から分析する

- 1) どのようにエピソードが構築されているか
- 2) どのような語や表現が用いられているか

これらの要因を考察する

- 3) 「話し手の志向」にどのような違いがあるか

3.1. 先行研究

書き言葉における日英語の文章構成のパターン

Kaplan (1966)

アメリカ人の論文の
文章構成

English



アジア人の論文の
文章構成

Oriental

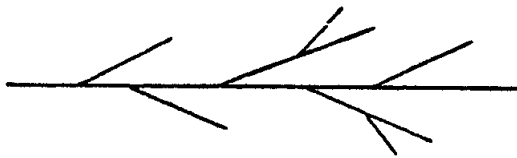


3.2. 先行研究

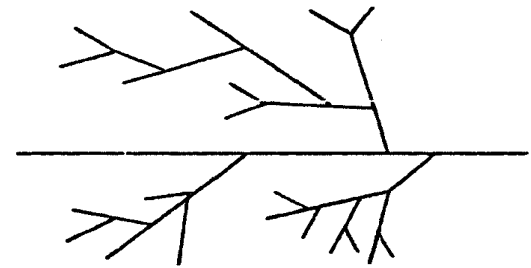
書き言葉における日英語の文章構成のパターン

Leggett (1975)

アメリカ人の文章構成



日本人の文章構成



3.3. 先行研究

書き言葉における日英語の文章構成のパターン

(メイナード1997他)

英語の文章

Introduction

序論

Main body

本論

Conclusion

結び

論旨を提示

日本語の文章

序

破

急

論旨を提示

4. データ



TED Talks

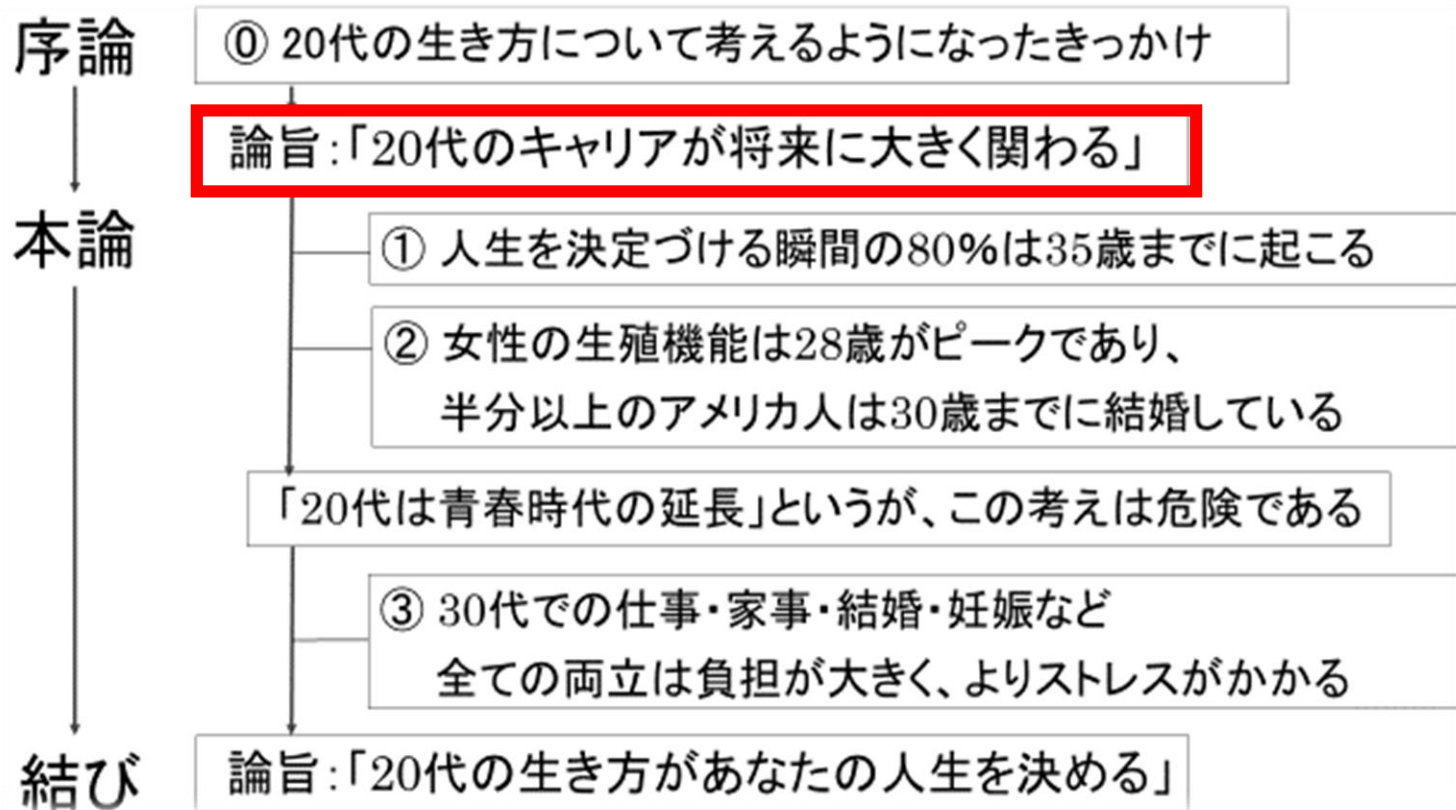
学術・エンターテイメント・デザインなど
多岐にわたる分野の人物が登壇し、
20 分程度でプレゼンテーションを行うイベント

□ 本研究の分析対象

アメリカ英語：12， 日本語：12

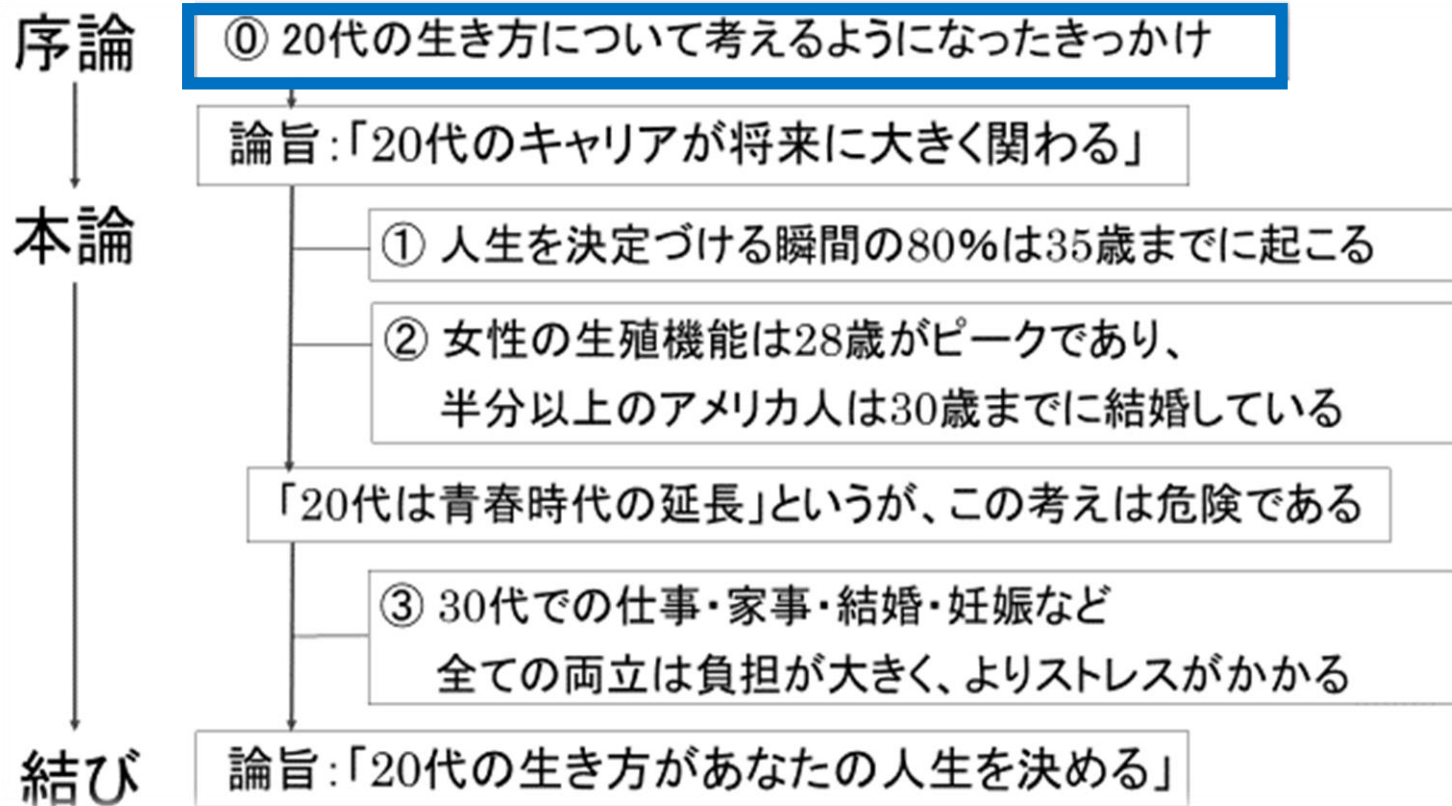
5.1. スピーチの構造（英語）

Meg Jay（臨床心理学者）“30 is not the new 20.”



5.1. 論旨を導くエピソード（英語）

Meg Jay（臨床心理学者） “30 is not the new 20.”



5.1. 論旨を導くエピソード (英語)

□ 論旨を導くエピソードの特徴

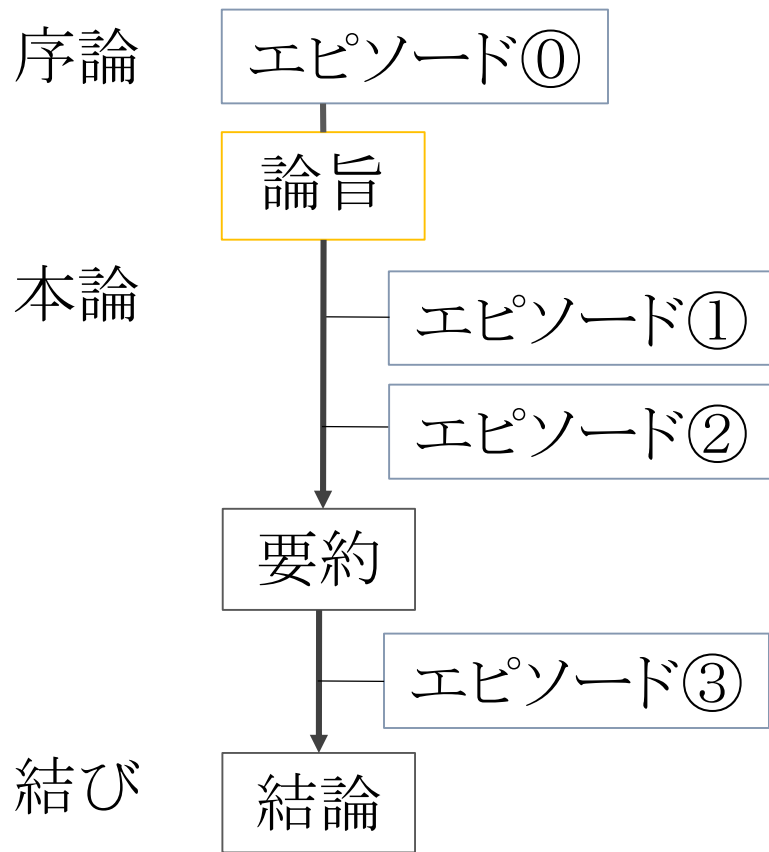
- ・ 主語が “I” で構成された自身の経験に基づく内容

When **I** was in my 20s, **I** saw my first psychotherapy client.
I was a PH.D. student in clinical psychology in Berkeley.

- ・ 話し手自身の感情が語られる

Now, when I heard this, **I was so relieved.**

5.1. スピーチの構成（英語）



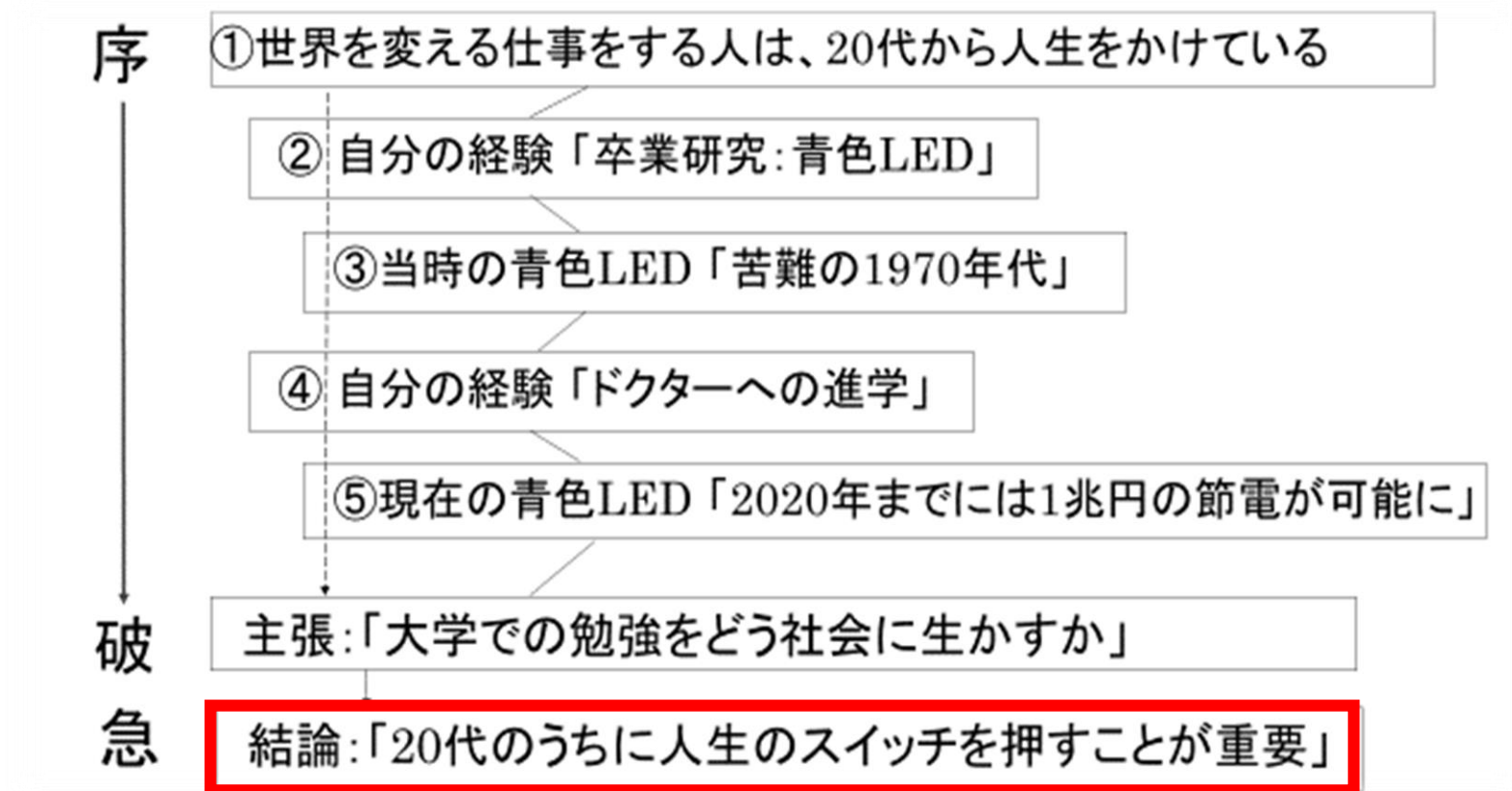
「例証型」のスピーチ

➡ 論旨の根拠を証明することが目的

前半で終着点が予測でき、
続くエピソードによって理解を深め
論旨との直接的なつながりによって
納得を与える。

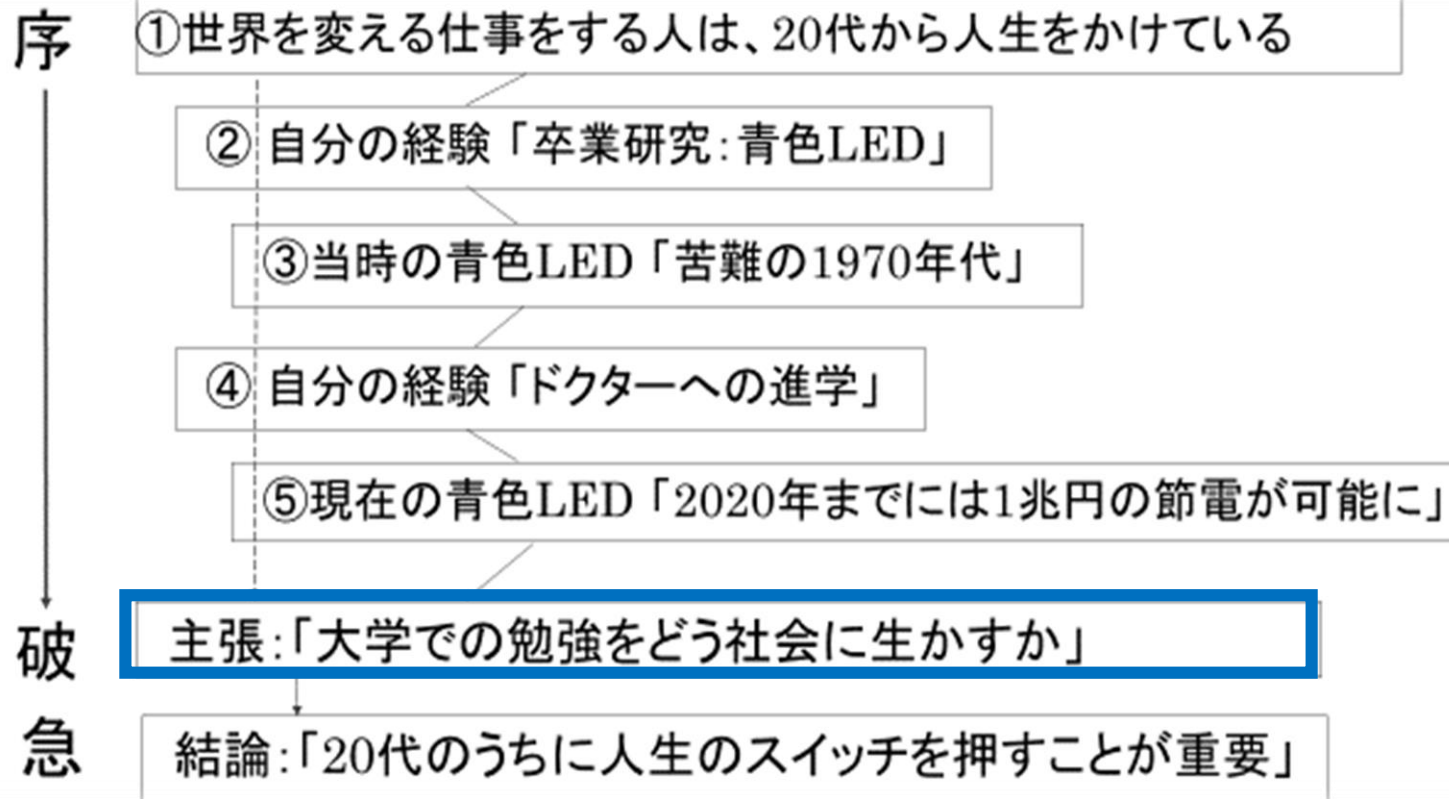
5.2. スピーチの構成（日本語）

天野 浩(電子工学者)「人生のスイッチを入れるタイミング」



5.2. 論旨を導くエピソード（日本語）

天野 浩(電子工学者)「人生のスイッチを入れるタイミング」



5.2. 論旨を導くエピソード（日本語）

□ 論旨を導くエピソードの特徴

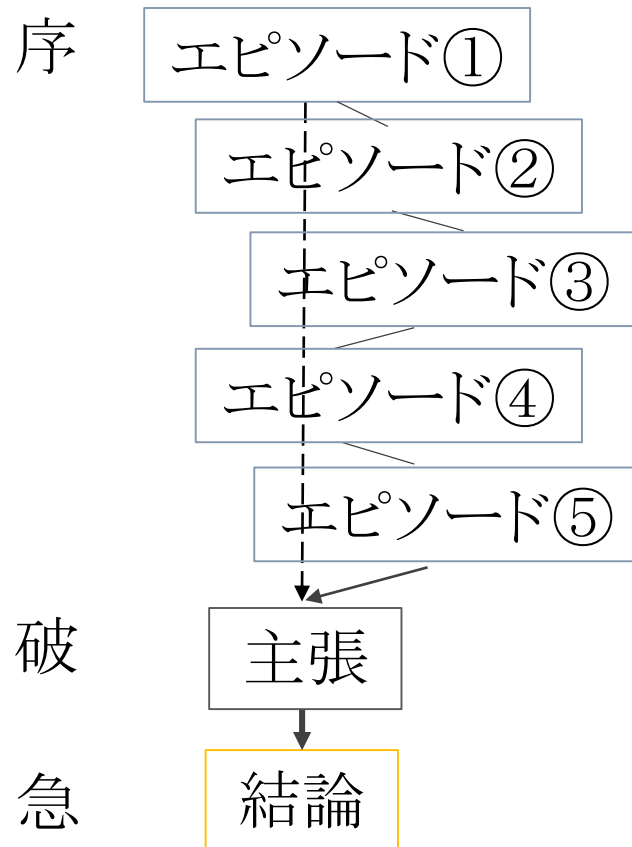
- ・ 社会問題，環境問題への言及
- ・ 受身や推量などの表現

「～と言われています」：

「～でしょう」「～かもしれない」：

健康づくりの1番のキーワードは人とのつながり **と言われています**。
ただ、人と人との関係ですから、そりゃ嫌な人もいますよね。
嫌いな人もいる **でしょう**。だからこそ面白いなあと思うのは、 ...

5.2. スピーチの構成（日本語）



「**伏線型**」のスピーチ（日本語）

➡論旨を共同構築することが目的

後半まで終着点が明かされず、

最後に論旨が示されたときに

エピソードと論旨のつながりが

明確になり、納得を与える

6.1. 使用される言語資源（英語）

“Yes” “No” を使った修辞疑問文

Can changing how you think about stress make you healthier?
And here the science says **yes**.

What do you think happens when you pat a twentysomething on the head and you say, “You have 10 extra years to start your life”? (2.0) **Nothing** happens.

➡ **確実性** の強調

6.1. 使用される言語資源（英語）

“fact” “true” 事実を強調する語

“This is not my opinion. There are the **facts**. We know that 80 percent of life’s most of defining moments take place by age 35.”

“We are a society who has become accustomed to having closet that are completely crammed with clothes. It’s **true**.”

➡ **確実性** の強調

6.1. 使用される言語資源（英語）

列挙法

“Work **happened later**, marriage **happened later**,
kids **happened later**, even death **happened later**.”

日本語字幕：「就職も結婚も出産も昔より遅くなって
死ぬことだって先になっている。」

➡語の強調、リズムの創発、**確実性**の強調

Cf. 韻を踏んだ文章は、同じ意味の押韻のない文章よりも、
受け手に「**正確である**」という認識を持たせる

(McGlone and Tofignbakhsh 2000)

6.2. 使用される言語資源（日本語）

終助詞「ね」

このフィルム、あの、透明で穴が無いように見えますよね。
でも実はナノサイズの、穴が、ものすごくたくさん空いてます。
... 水とか栄養分は吸い込みます。ただ、菌とかウィルスはでかいから入れません。ですから、こっちが病気にならないんですね。

➡聞き手を話し手のウチに入れ、**共感**を引き出す

6.2. 使用される言語資源（日本語）

程度を表す副詞の使用：

評価に関わる形容詞の使用：

当時ディスプレイは全てブラウン管でしたので、**非常に大きい**もので、
電力も**ものすごく**かかるものでした。それが、青色LEDにしたら、
非常にスマートなものになるということがわかったんですね。

➡「自己開示」は他者の**共感**を引き出す効果を持つ

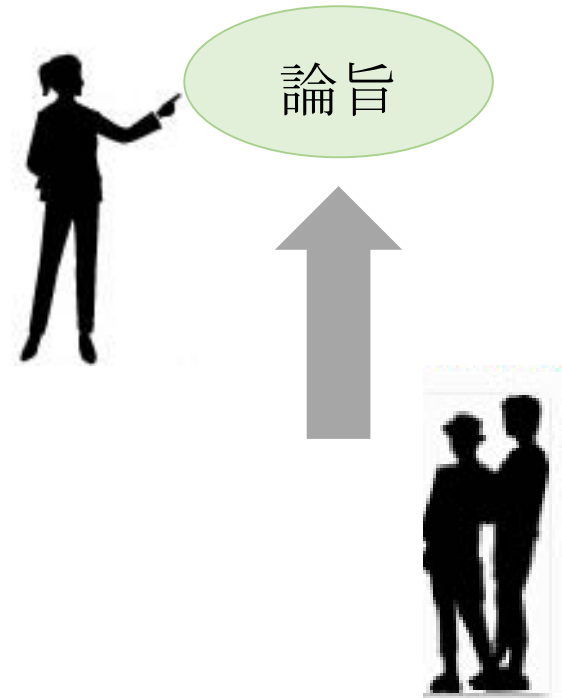
7.1. まとめ「話し手の志向」 (英語)

アメリカ人のスピーチは、

分析1. 「例証型」のスピーチ構成

分析2. 「確実性」を強調する傾向

「**先導型**」のスピーチ



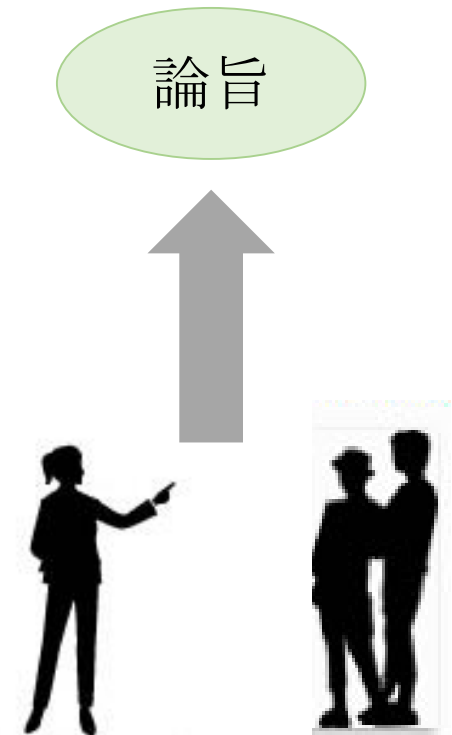
7.2. まとめ「話し手の志向」 （日本語）

日本人のスピーチは、

分析1. 「伏線型」のスピーチ構成

分析2. 「共感」を重視する傾向

「同行型」のスピーチ

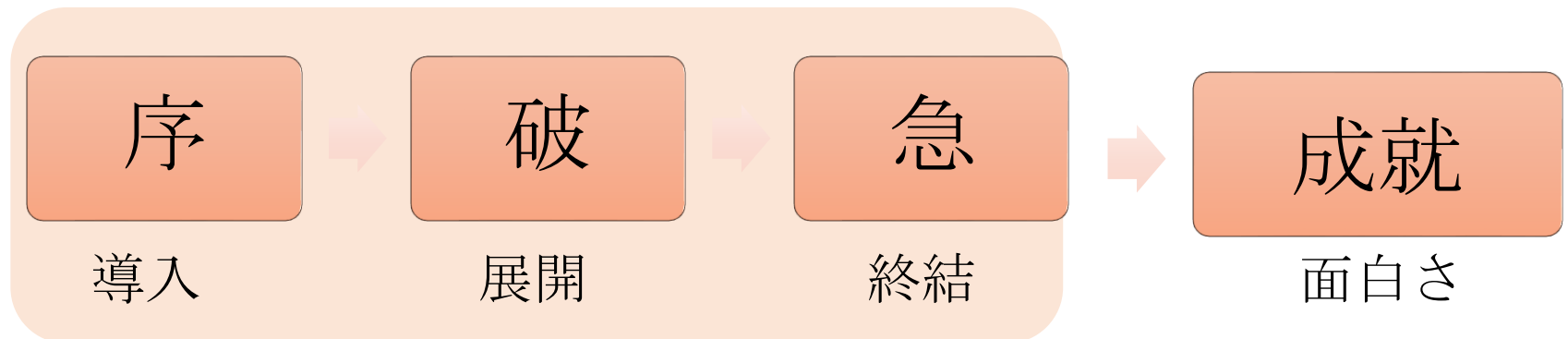


8. 文化に根付く思想：日本人のレトリック

世阿弥（能）の考え

序破急「成就」

「序破急という道を辿ることによって、最高の境地に導かれ、その行き着いた先に「成就」を得ることができる」



(丹波 2004)

9. 今後の課題

発信型英語教育におけるプレゼンテーションの在り方

- 形式だけでなくその機能を知ること、
言語構造・文法上、日本語にしかない特徴を
どのような英語に変換できるかを学習できる
- 馴染みのある日本語レトリックを保持しながら
英語レトリックと統合する形を検討していく
- 文部科学省「日本の文化を外国語で発信する」
レトリックは文化を反映している
➡ 日本人：共感を重視した同行型のスピーチ

参考文献

- Abbott, Andrew. 1990. Conceptions of Time and Events in Social Science Methods: Causal and Narrative Approaches. *Historical Methods* 23:141-150.
- 安藤貞雄. 1986. 英語の論理・日本語の論理. 東京: 大修館書店.
- Connor, Ulla. 1996. Contrastive Rhetoric: Cross-cultural Aspects of Second Language Writing. Cambridge University Press.
- Halliday, MAK. 1976. Cohesion in English. London :Longman.
- Hinds, J. 1983. Contrastive Rhetoric: Japanese and English. Text3.
- 本名信行. 1989. 日本語の文体と英語の文体. 講座日本語と日本語教育5: 363-385. 明治書院.
- 池田拓朗. 1992. 英語文体論. 東京: 研究者出版.
- 池上嘉彦. 2006. 英語の感覚・日本語の感覚: ことばの意味のしくみ. 東京: 日本放送出版協会.
- Kachru, Y. 1995. Cultural Meaning and Rhetorical Styles: Toward a Framework for Contrastive Rhetoric. In (eds.) Cook, G. and Seidlehofer, B. *Principle and Practice in Applied Linguistics: Studies in Honour of H.G. Widdoeson*. 171-184. Oxford: Oxford University Press.
- Kaplan, Robert. 1966. "Cultural Thought Patterns in Intercultural Education." *Language Learning* 16:1-20, 14.
- Leggett, Anthony. 1975. Notes on the Writing of Scientific English and Japanese Physics. *Journal of the Japanese Physical Society* 22: 1-10. 論文をよくするために. 日本物理学会.
- McGlone, Matthew and Jessica Tofighbakhsh. 2000. Birds of a feather flock conjointly (?): Rhyme as Reason in Aphorisms. *Psychological Science* 11. 424-428.
- 水谷信子. 1993. 「共話」から「対話」へ. *日本語学* 12, 4: 4-10.
- メイナード・泉子. 2004. 談話言語学: 日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究. 東京: くろしお出版.
- 佐藤信夫. 1992a. レトリック感覚. 東京: 講談社.
- , 1992b. レトリック認識. 東京: 講談社.
- Scollon, Ron and Scollon, Susan Wong. 2000. Intercultural Communication: A Discourse Approach 2nd edition. *Language in Society*. Oxford: Oxford England.
- 丹波明. 2004. 序破急という美学: 現代によみがえる日本音楽の思考型. 東京: 音楽之友社.